椹野川河口域・干潟自然再生協議会
ニュースレター

№7

発行日：平成２３年３月
事務局：椹野川河口域・干潟自然再生協議会

このニュースレターは、椹野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。平成 22 年度の取組状況は以下のとおりです。

実施日		内　　容
4 月	15 日	干潟モニタリング（南潟）：目視調査（以降毎月実施）
	30 日	山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業） アサリ（間引き）、被覆網の管理、モニタリング等（以降適宜実施）
5 月	1 日	椹野川河口域・干潟自然再生協議会（第 1 回：通算 11 回） 住民参加による干潟耕耘（耕耘、被覆網設置）、干潟観察会（南潟）
8 月	1 日	山口湾アマモ繁茂状況の調査（空撮）
	8 日	カブトガニ幼生生息調査（自然再生協議会：カブトガニワーキンググループ）
	12 日	被覆網設置による効果把握調査（試験区の設置）
	22 日	ナルトビエイ駆除/椹野川河口（8 月～10 月まで 6 回実施）
9 月	6 日	被覆網設置による効果把握調査（夏季：南潟）
10 月	10 日	里海体験学習（南潟）講師派遣
11 月	2 日	被覆網設置による効果把握調査（秋季：南潟）
1 月	24、25 日	自然再生協議会全国連絡協議会（茨城県）
2 月	2 日	被覆網設置による効果把握調査（冬季：南潟）
3月	16 日	やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会

＜平成 22 年度の主な取組＞

椹野川における良好な河口干潟生態系の生物指標のうち、代表的なものはアサリやカブトガニ、アマモ場であり、これらの生息・生育環境の再生を目指しています。

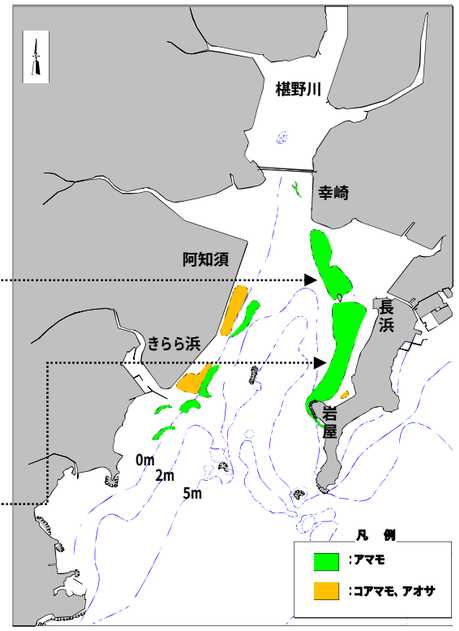
平成 22 年度は、「椹野川河口域・干潟自然再生協議会」の第 11 回目の委員会を 5 月 1 日（土）、山口県漁協山口支店で開催しました。今回は、委員の任期が 3 月末で終了していることから、まず第 4 期委員が選任され、これにより、第 4 期委員は 56 名でスタートすることになりました。また、会長及び会長代理の選任については、会長に中西委員、会長代理に浮田委員がそれぞれ選任されました。委員会終了後、昨年度に引き続き、椹野川河口干潟（南潟）で育ったアサリの他、山菜の天ぷら、鮎の塩焼き等が振る舞われ、干潟耕耘前に、おいしい料理をいただきました。

主な取組として、南潟では毎年恒例の地域住民参加型の干潟耕耘や被覆網の設置等を行いました。また、「山口県漁協山口支店による干潟管理」、「カブトガニワーキンググループによるカブトガニ幼生の分布調査」、「椹野川漁協によるナルトビエイの駆除」、「山口湾のアマモ分布調査」等が行われました。また、本年度の新たな取組としては、青少年を対象にした里海体験学習を実施しました。

＜山口湾のアマモ分布状況の変遷＞

山口湾のアマモ場造成の取組については、平成 14 年度～平成 20 年度までに、漁業者や地域の皆様等との協働により、種の採取・播種を行い、平成 20 年には 142ha まで分布が拡大してきました。

平成 22 年度は、その後のアマモ場の分布状況を確認するため、パワードパラグライダーによる空中撮影により、調査を行いました。その結果、分布状況は平成 20 年度と概ね同様な分布傾向にあり、特に岩屋、長浜～南潟の前面海域では高密度にアマモの分布が確認されました。アマモは、水質浄化、魚介類の産卵・成育場、カブトガニの幼体の成育場所として、非常に重要なため、今後とも生育環境が保全されることが期待されます。



山口湾のアマモ場分布(2010)

＜里海体験学習の開催＞

山口市を中心に環境学習活動を実施しているＹＳＣエコクラブ（小、中学生会員）が、南潟で、里海体験学習（「こども自然共生活動推進プログラム」（県事業）の一環）を開催しました。当日は、子ども 25 名、保護者等 15 名が参加し、県環境保健センターによる事前講習と、干潟生物観察会を行いました。里海の再生について学習するとともに、干潟では二枚貝やカブトガニなど 20 種類以上の生物を観察し、干潟の豊かさを体験しました。

※　資料の公開方法
協議会で公開された資料及び議事要旨等については、椹野川河口域・干潟自然再生協議会のホームページ（http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html）で公開しています。
※　ご意見・ご質問等の問い合わせは、事務局（山口県環境生活部自然保護課）に電話、FAX、メールでご連絡ください。
TEL 083-933-3060、FAX 083-933-3069、E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

制作・発行：環境省　中国四国地方環境事務所　〒700-0984　岡山県岡山市北区桑田町 18-28

＜南潟　干潟再生活動＞

平成 22 年度は、5 月 1 日に地域住民のみなさまで、クワやスコップを利用して人力で約 4,500 ㎡の干潟を耕耘や被覆網の設置を行いました。その後、定期的なモニタリングや小規模な被覆網設置の効果試験を行いました。南潟では、アサリを放流することなく、地場産のアサリが順調に成長しています。

椹野川河口域南潟

住民参加型の干潟再生活動

干潟再生活動は、椹野川河口域・自然再生協議会委員や地元地域住民のみなさま総勢 183 名で行いました。
また、参加した子供達を対象に干潟観察会を行い、干潟を身近に感じてもらいました。

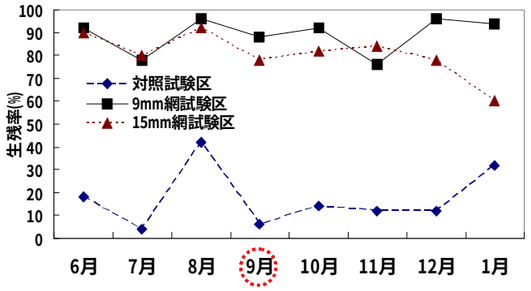
耕耘作業後の集合写真（総勢 183 名）

実証試験（被覆網設置による効果把握）

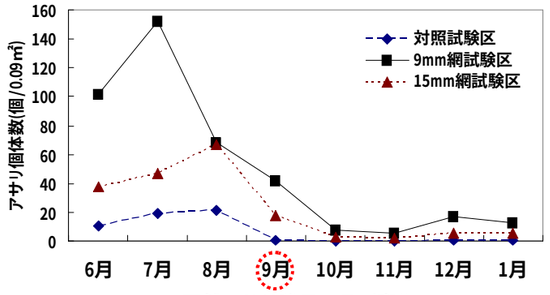
干潟上に被覆網を設置することで、アサリが生息するようになりましたが、これまでの再生活動から被覆網の目合によってもアサリの生息数に違いがみられることが分かってきました。

そこで、平成 22 年度は、被覆網設置の効果を把握するため、目合の異なる被覆網（9 ㎜、15 ㎜）と被覆網を設置しない試験区にアサリを放流し、毎月アサリの生残状況を確認しました。

その結果、被覆網を設置した試験区では、設置してない試験区（対照区）と比較して、放流アサリの生残率が高く、天然アサリの稚貝の加入も多い傾向にあり、被覆網の設置による効果が高いことが分かりました。さらに、被覆網の目合の違いでは、15 ㎜目合と比べ、9 ㎜目合の試験区で、生残率、天然アサリ稚貝の加入も多い傾向にありました。今後の干潟再生活動に反映していく予定です。



放流アサリの生残率の月別変化



天然アサリ稚貝の月別変化

対照区　ふるい後（9 月）

被覆網 9 ㎜目合　ふるい後（9 月）

被覆網 15 ㎜目合　ふるい後（9 月）

＜山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業）＞

山口県漁協山口支店と椹野川漁協の組合員を中心に構成された「山口湾の干潟を守る会」では、21 年度から始まった藻場・干潟保全活動支援事業により、干潟の保全活動を行う組織として、昨年度に引き続き、アサリ管理とナルトビエイ駆除の干潟保全活動に取り組みました。

山口支店による干潟管理／山口県漁協山口支店

平成 21 年 7 月から保全活動として、被覆網によるアサリ管理を開始。新たな被覆網も設置して、アサリの間引き作業や、網の保守管理を行いました。平成 22 年 4 月から 8 月までの間の 4 回の間引き作業で、約 250 kgのアサリが収穫されました。今後、被覆網の追加による漁場拡大で、アサリ資源の増大を目指します。

被覆網の取り換え

アサリの間引き

間引き後のアサリ

ナルトビエイの駆除／椹野川漁協

干潟を守る会のナルトビエイ駆除活動として、平成 22 年 8 月 22 日から 10 月 27 日までの計 6 回で合計 60 尾のナルトビエイを駆除しました。アサリやシジミの外敵であるナルトビエイ駆除を行うことで、漁業資源の回復を応援していきます。

駆除活動の様子

駆除活動の様子

ナルトビエイ

＜カブトガニワーキンググループの取組＞

山口湾のカブトガニ産卵場、生息場の保全を図るため、カブトガニワーキンググループ（原田直宏グループリーダー）を中心に取り組んでいます。平成 22 年度は、8 月 8 日に長浜でボランティア等 40 名、8 月 24 日に南潟で県職員 7 名でカブトガニ幼生の生息状況を把握するための調査を行いました。

その結果、発見された幼生は、長浜 194 個体、南潟 39 個体の計 233 個体で、昨年度とほぼ同様な傾向で分布していました。

また、昨年から山口大学とも合同で調査・研究が行われており、カブトガニ幼生生息域において COD や粒度などの面的な分布状況を調べたほか、高精度な GPS を用いて干潟の標高も測定し、幼生の生息環境について調査を行いました。

カブトガニ幼生のラインセンサス調査